



## 元 気 通 信

### ～かけ橋～

ブダペスト日本人学校  
学校だより 第4号  
令和2(2020)年7月17日  
校長 松丸 晴美

#### 新しい生活様式下の夏休み

7月も半ばを過ぎると「もうすぐ夏休み」と子供も教師も少し浮き浮きした気持ちになったものでした。しかし今年は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン授業はあったとはいえ、4か月近くも家庭で過ごした子供たちにとって、夏休みを待ち望む気持ちは例年とは異なるのではないのでしょうか？

そもそも「夏休み」はなぜわくわくするのでしょうか？「朝寝坊ができる」「勉強しなくていい」「好きなスポーツやゲームに夢中になれる」「田舎や旅行に行ける」「家族でゆっくり過ごせる」「友達といっぱい遊べる」など理由はいろいろでしょう。

私が子どもの頃は、海や祖父母の家に泊りがけで連れて行ってもらえ、いとこたちと遊べる夏休みがとても楽しみでした。

しかしコロナ禍にある今年の日本は、暑い中でもマスクをつけ、店の入り口では消毒薬を使い、電車やバスに乗るときは、なるべく人のいない空間を探し、帰宅したら真っ先に入念な手洗い・・・と、新しい生活様式に則る行動が求められ、県外への移動もはばかられ、夏休みといっても手放しで喜べない現状があります。ハンガリーも同じような状況ではないのでしょうか？

そんな「今年の夏休み」はどう過ごせばいいのでしょうか？最近の新聞で、ある民間企業の調査による、今春小学校を卒業した子供たちに「将来就きたい職業」をアンケート調査した結果を目にしました。その調査によると、男女とも「医療関係者」が上位を占め、人の役に立ちたいと考える子供が増えているのでは？という分析がされていました。何とも頼もしいことです。子供たちの前向きな思いは、「嘆いてばかりいられない」

と気持ちを奮い立たせてくれました。

コロナ禍により、学校はオンライン授業、企業はテレワークが進むなど新しい社会生活の様式が形成されつつあります。

2014年にオックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授が「雇用の未来」という論文の中で、10年～20年後には今ある仕事の約半数がAI（人工知能）に取って代わられるだろうという説を発表し、衝撃を受けたものです。しかし、この度の世界的な新型コロナウイルス感染症は、わずか数か月の間に、私たちの仕事や生活を大きく変えてしまいました。

この夏休み、プラス思考で、親子で将来の仕事や社会のありようについて、話し合ってみてはどうでしょうか？



(我が家近くに住むカルガモ親子)

日本に待機中の私たち新派遣教員も夏休み中には渡洪し、2学期の学校再開に向けて準備を整えたいと切に願っています。

保護者の皆様には、1学期のオンラインによる授業に対するご支援、学級懇談会や面談に対するご理解・ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

2学期の始業式には、ブダペストの学び舎で子供たちに会えることを楽しみにしています。